

国際ロータリー 第2660地区

2003～2004年度

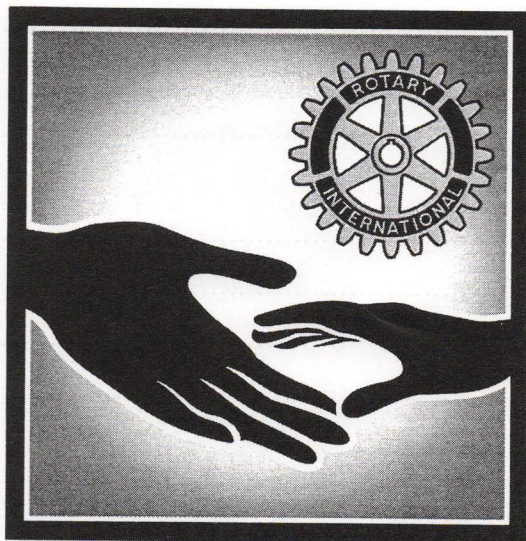
地区委員会

活 動 計 画 書

合同地区委員会開催 ◆2003年7月5日(土) ◆大阪YMCA会館

ガバナー 若林紀男

2003-2004年度RIテーマ



手を貸そう

目 次

ア・ロ・シ・タの各学級委員会役員同好会
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 門 部 員 会 一 七 二 九 九 九

会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

門 部 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 門 部 員 会 一 七 二 九 九 九

会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

門 部 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

門 部 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

門 部 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

門 部 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

門 部 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九
 会 員 委 員 会 一 七 二 九 九 九

目 次

目 次

合同地区委員会開催にあたって	1
地区ガバナー指名委員会	2
意義ある業績賞委員会	3
クラブ奉仕部門	
クラブ奉仕委員会	5
拡大・増強委員会	7
情報・広報委員会	7
職業奉仕部門	
職業奉仕委員会	9
社会奉仕部門	
社会奉仕委員会	11
青少年奉仕部門	
新世代合同委員長会議	13
青少年活動委員会	14
ローターアクト委員会	15
インターアクト委員会	19
国際奉仕部門	
国際奉仕委員会	21
世界社会奉仕委員会	21
青少年交換委員会	22
ロータリー財団部門	
ロータリー財団委員会	24
財団情報・増進委員会	25
財団奨学金・学友委員会	26
研究グループ交換委員会	28
財団人道的補助金委員会	29
米山奨学部門	
米山奨学委員会	31
On to Osaka 委員会	33
地区大会	34
ロータリーの友	35
財務委員会	37
地区組織図	41

合同地区委員会開催にあたって

ガバナー 若林紀男

2003～2004年度の地区委員会に所属され、これからの一年間私と共に地区内86クラブの活性化の為に、お手伝いをして頂く大切な役割をお願い申し上げます。

幸いに皆様の多くは、昨年度井上ガバナーのご指導のもとに新しい地区委員会のあり方にご努力をされてこられました。本年度は一層その使命を自覚して任に当たって頂き、年度末には各ロータリークラブより感謝の意が寄せられる結果にしたいと考えております。

「クラブ主役」の意識の元に「クラブに活力」を実現するためには、各クラブの会長を始め、リーダー役のロータリアンが率先して、ロータリー活動に情熱を燃やしていただくことが大前提であることは申すまでもありません。

地区委員会の皆様には、豊富な経験と知識を各クラブに情熱の形で、きめ細かくご指導頂く重要な役割を担って頂きます。

前年度よりスタートした「ガバナー補佐制度」を本年度は軌道に乗せて、ガバナー補佐の皆様には私の分身的役割と、地区委員会と連携していただき各クラブのご指導をお願い申し上げます。

本年度のR Iのテーマ「Lend a Hand 一手を貸そう」を最も身近なところ、即ち個々のロータリアンはクラブに、クラブは近隣クラブや地域社会に、地区はクラブに一手を貸そうではありませんか。

本年度は「ガバナー補佐会議」が月一回開催されます。また、IM組ごとの「幹事会」も全組結成され、それぞれ定例会が開催されます。これらの会議は委員会の情報を的確に伝達されるのに有効な機能を発揮するものと考えられます。

ガバナー事務所は、前年度に引き続き現事務所を継続することに致しており、宮田ガバナー・エレクトも固定化に賛同をしておられます。また、事務局スタッフのレギュラー化により、事務局機能の向上、各委員会の Know How の蓄積を図りたいと考えております。

最後に大変大きな歴史的イベント「R I 2004年大阪国際大会」の成功に向けて一致団結総力結集を委員会の皆様が先頭に立って示して頂くことをお願い申し上げ、私からのメッセージとさせていただきます。

地区ガバナー指名委員会

委員長 井上 暎 夫 (千 里)

委員 近 藤 雅 臣 (千 里)

同 吉 川 謹 司 (東大阪東)

同 柏 木 尚 (豊 中)

同 寺 田 和 之 (大 阪)

2003年中に2005～2006年度ガバナー・ノミネーを選出するべく努めます。

意義ある業績賞委員会

委員長 古田 敬三 (大阪)

委員 廣瀬 勘一郎 (大阪西南)

同 中川 章三 (大阪城南)

ロータリークラブの有意義で卓越したロータリー活動に対して、RIから「意義ある業績賞」が贈呈されます。そのために、各地区ガバナーは受賞クラブを選び、RIに選定を証明する手続きをとることになっていますが、本年度の第2660地区における選定の基準及び手続きは次の通りであります。(申請手続きについては2001年版手続要覧P71参照)

◇選定の基準

受賞資格を有するのはクラブのプロジェクトのみであること、又、推薦できるのは一地区につき1クラブのみであることにご留意下さい。既に「意義ある業績賞」を受賞したことのあるプロジェクトは、重ねて業績の認証を受けることは出来ません。「RI 意義ある業績賞」に推薦するプロジェクトを選定する前に、次の選定基準を満たしているかどうか確認して下さい。

- ・プロジェクトは地元の問題、又はニーズを対象とするものでなければならない。
- ・プロジェクトは単なる金銭的な奉仕でなく、クラブ会員の大半又は全員が直接参加するようなものでなければならない。
- ・プロジェクトは適切であれば、他のロータリークラブもこれに習って行うことが出来るようなものでなければならない。
- ・プロジェクトは当該年度に始められたものである必要はないが、現に実施中、もしくはその表彰の行われるロータリー年度に終わられるものでなければならない。
- ・いかなるクラブも同一プロジェクトにつき、重ねて業績の認証を受けることは出来ない。

◇選定手続

地区ガバナーは8月1日迄に地区選考委員を選任し、この選考委員会が表彰プロジェクトの申請書を受理することを告知する。地区ガバナーは、その月信で(前記)選定基準と共に申請書を委員会が受理する締切日(12月31日)を公示する。推薦書式は地区ガバナーから入手出来る。

地区選考委員会は2月1日迄に会議を開き、5プロジェクト迄を限度として受賞候補を選び、之を3月1日迄に地区ガバナーに提出する。

選考委員会が選んだ受賞候補プロジェクトの中から、地区ガバナーは地区選考委員会と協議の上1プロジェクトを選定する。

「意義ある業績賞」の提出締切日は2003年12月26日(金)とする。

地区ガバナーは選定した通知が2004年3月14日迄に届くようR I 会長に提出する。

R I から正式の認定状が送付されてくると、ガバナーは地区大会でこの認定状を受賞クラブに贈呈して表彰する。

(選考委員会) 三浦 由 吉 委員長

(地区ガバナー) 田中 清 委員長

(地区ガバナー) 藤 川 中 岡

ク ラ ブ 奉 仕 部 門

顧問 パスト・ガバナー 戸 田 孝 (八 尾)

ク ラ ブ 奉 仕 委 員 会

委員長 井 上 家 昌 (東大阪東)

副委員長 中 野 憲 城 (大阪城東)

委 員 杉 本 全 司 (吹田江坂)

同 益 田 哲 生 (大阪北)

同 中 山 賢 (池 田)

同 織 田 宗 輔 (東大阪)

同 石 田 秀 (大阪西南)

同 神 前 俊 彦 (千 里)

基本方針

国際ロータリーの本年度のテーマは「手を貸そう」であり、又、マジアベR I会長は、「親睦と奉仕で、他者に手を差し伸べること、クラブで、職場で、そして世界で、どこにあらうと必要なところで手を貸そう」と言われております。これに今年度、地区若林ガバナーは、「ロータリーは楽しく、クラブは活力がなければなりません」と強調され、具体的には、
“クラブ主役の意識と運営に徹すること”

それには

- (1) 各クラブの特徴を生かす
- (2) 退会防止と会員増強
- (3) クラブ間の連携

を示されました。これにより、当委員会は下記の方針で臨みます。

活動計画

1. 現在各クラブが抱える課題を集約しますと、

- ① 会員数の減少、退会防止策
- ② クラブ運営、活力低下策、魅力ある例会づくり策
- ③ 会員に対する教育、情報提供不足策、特に新会員に対するオリエンテーションや、フォロー体制不備

- ④ クラブ内の人間関係、年代間の意識の乖離、価値観の相違、女性会員の入会
- ⑤ クラブ財政問題、経費削減対策
- ⑥ 会員選考問題

等々、クラブ奉仕関係に集中しており、これらの問題点を各クラブ主体に、具体的な解決策を検討されるにあたり、当委員会として支援させていただきたいと考えております。

2. この目標を達成するには、必要とされる情報、知識を提供するため、クラブの会長、幹事、クラブ奉仕委員長とも密接に協力し、他クラブでの成功例等の情報を提供して、助言させていただきます。
3. 又同時に、ガバナー補佐との関係では、ガバナー補佐は課題解決のためのゼネラリストであるなら、当委員会は、各クラブのクラブ奉仕関係のエキスパートとなれるよう、委員会内のコミュニケーションを良くし、勉強してまいりたいと考えます。
4. 地区委員会、特にクラブ奉仕部門の他の2委員会とも連携を取りつつ、合同委員長会議を企画し、部門の顧問、戸田PGのご助言をいただきながら、目標達成に努力いたします。
5. 若林ガバナーの言われる「ロータリーは楽しく、クラブは活力」は、ロータリーの本当の親睦とは、クラブ内を充実させ、お互いにもっと知り合い、磨き合い、例会に出席し、奉仕活動を通じて、更に親睦を深め合うことであり、より良いクラブ運営の方策とします。
6. 2004年規定審議会がシカゴで開催されますが、これに向けて地区内で、R I定款、細則等の提案案件をピックアップの上、
 - ① 委員会内で整理、研究、各クラブより提案をお願いし、結果を地区としてまとめます。
 - ② 採択された案件の検討と、各クラブへの普及をします。
 - ③ 最新版「手続要覧」につき、改定事項の周知をはかります。
 - ④ クラブ規定・情報委員長会議の開催を行います。
 - ⑤ クラブ会報の原稿提供、クラブ定款、細則の内容点検依頼があれば協力します。
7. 卓話銀行については、会員出席率向上、ビジターの中途退席を少なくするため、ロータリー関連のほか、有益で楽しい卓話のため新しい講師を登録する等、クラブの便宜をはかり、利用を推奨します。

拡大・増強委員会

委員長 住吉正敏(大阪城東)

副委員長 中嶋博信(大阪東)

委員 上西宏侑(大阪城東)

同 菅本憲市郎(新大阪)

同 境高彦(大阪城南)

本年度ガバナー方針

“ロータリーは楽しくなければなりません

クラブは活力がなければなりません”

と示されており、活力を生む最大の活力源は友情を育て奉仕を共にできる仲間が増えることです。

それは、会員増強に他ありません。その為には各クラブが主役となり、クラブのよりよい改善策を見つけ出し、会員増強、退会防止を積極的に取り組み、活力を出しましょう。

その為には、当委員会は積極的に支援致します。

活動計画

◎会員増強セミナーを開催する。

(増強、退会防止策の情報交流)

◎クラブ奉仕部門3委員会合同セミナー

(活力あるクラブ作りにする情報交流)

◎会員100名以上のクラブ、20名以下のクラブの委員長と情報交換をする。

◎クラブ拡大については特別な候補は立てず現状クラブの充実を第一に取り組みます。

情報・広報委員会

委員長 早嶋茂(大阪)

副委員長 溝手敦信(大阪東)

委員 前田一(大阪)

同 浜田晋(大阪北)

【基本方針】

昨年度の活動計画とその実績を踏まえ、今年度も、21世紀社会の情報伝達手段の中心になりつつあるIT機能整備を、地区内86クラブを対象に積極的に推進します。

また、同時に「国際ロータリー第2660地区」の存在、活動内容の訴求・広報の充実も図っていきます。

【活動計画】

1. 地区内ITネットワーク構築のさらなる推進。

昨年度の地区内86クラブ間のITネットワーク構築は、かなりの程度の整備促進を実現できた。今年度は、さらに現時点でIT環境の整備がなされていない地区内クラブに対して引き続き本件の提案、実現のためのサポートを推進する。

2. 積極的な広報活動による「国際ロータリー第2660地区」の認知促進。

現在、ロータリアンの活動は、社会全体に対する適切な広報活動によって、十分に普及、認知されている状態にあるとは言い難いものがある。元来、ロータリークラブの活動は真のボランティア精神から発生する匿名性の強いものだが、今後のロータリー活動の展開のためにも、また、他のNPO団体等との明確な差別化を図るためにも、ロータリークラブ、あるいはロータリー活動に対する一般市民の認知、理解は不可欠である。上述の認知、理解促進のため、「国際ロータリー第2660地区」の存在とその活動内容を、さまざまな機会を活用して積極的かつ効果的に広報していきます。

3. マスメディアとの協調関係のさらなる推進

上記2を促進ために、在阪新聞社、テレビ局、ラジオ局等マスメディアの社会・文化部及びその記者クラブに対して、活動予告、活動成果等の定期的な情報提供を実施し、マスメディアにおける「国際ロータリー第2660地区」に対する注目度を、常に高いものとしていきます。

その前段階として、ガバナーと各メディア担当者による「懇談会」の開催を計画中であります。

職 業 奉 仕 部 門

顧問 パスト・ガバナー 寺 田 和 之 (大 阪)

職 業 奉 仕 委 員 会

委員長 辰 野 元 彦 (大 阪 東)
副委員長 近 藤 嘉 一 (大 阪 ユニバーサルシティ)
委 員 宮 後 浩 (大 阪 住之江)
同 本 田 和 正 (大 阪 南)
同 池 永 道 彦 (守 口)
同 木 村 直 樹 (大 阪)
同 村 木 茂 (新 大 阪)
同 前 田 澄 雄 (寝 屋 川)

1. 基本方針

ロータリークラブが、他の多くの奉仕団体と根本的に異なるのは、「職業奉仕」という概念の存在であると言われてしています。この点は、全てのロータリアンが十二分に自覚し、同時に誇りにしなければなりません。

我々ロータリアンは夫々の職業分野で指導的な立場にいます。長いロータリークラブの歴史の中で培われてきた職業奉仕の理念をより深く理解し、各ロータリアンの職業の場で或いは各クラブの活動の中で実践してゆく事が、我々一人一人に課せられた重大な責務であります。

この何年かは、経済を取り巻く環境はますます厳しさを増し、併せて経営者の企業モラルの低下が問題になっています。更には、環境破壊・食料や水資源対策などの諸問題に対し、民間団体や企業にも夫々の分野での積極的な対応が強く要請されています。こんな時にこそ我々ロータリアンは、尚一層職業倫理や道德観念の向上に取り組み、行動に移して行かなければなりません。

当委員会では、当地区のロータリアンが職業奉仕への理解をより一層深めていただく為の一助たるべく、努力してまいります。

2. 活動計画

① クラブでの職業奉仕活動の調査・研究

職業奉仕については、具体的な取組が難しいとのご意見をよく聞きます。

各クラブでこれまでに実践した内容をまとめ、情報提供します。

② 職業奉仕委員長会議の実施

10月の職業奉仕月間における活動計画に役立つべく、出来るだけ早い時期に実施したいと思います。

③ ロータリーに於けるボランティアの啓蒙活動・登録の推進

本年度は、特に「心のせんせい」「学校支援人材バンク」への登録を推進します。

当地区内の教育委員会や学校の要請に応え、我々職業人が夫々の体験に基づき、道德教育の非常勤講師を務める事は、非常に意義ある事と考えます。

社会奉仕部門

顧問 パスト・ガバナー 松本良諄(大阪東)

社会奉仕委員会

委員長 古澤照男(豊中南)

副委員長 若宮邦弘(大阪天王寺)

同 津田宏(大阪梅田東)

委員 浦川光雄(箕面中央)

同 樋上幸夫(摂津)

同 長谷川龍司(豊中南)

同 高士雅次(大阪西)

同 玉城明(吹田西)

23-34条は、社会奉仕のバイブルであります。これを如何に実現していくかということが問題であります。またその実現の方法は2660地区という大阪独自の地域の問題として実現させていかなければならないという使命があります。地区とは国際ロータリーの末端組織であり、銀行で言えば支店長のようなものでありますし、地区内の各クラブに対してそれが実現できるようにお手伝いをしていかなければなりません。昨年度より地区委員会組織の変更に伴い社会奉仕委員会は、社会奉仕、環境保全、交通問題の3委員会で活動してまいりましたが、本年度は地区人道的補助金の運用のこともあり、社会奉仕としての活動がよりいっそう重要な位置づけになるということで、地区人道的補助金委員会よりご推薦を頂きました副委員長をお迎えして、社会奉仕活動をより活発に推進する事と成りました。

社会奉仕事業を効果的に進めて行くため、その地域にはたして適合しているかどうかを把握することから始めなければなりません。本年度の社会奉仕委員会として地区補助金の問題もあり、本当に充実した委員会運営をしていかなければならない正念場だと思います。

社会奉仕グループ

昨年に引き続き保健衛生問題を取り上げ、地域発展に寄与していきたいと思ひます。

○献血運動の充実・展開

(企業献血の拡大に理解・協力)

ローターアクトとの協力

○ダメ・ゼッタイ運動の展開（薬物乱用防止運動）

麻薬・覚せい剤など薬物使用の低年齢化に反鐘する。

○ユネスコ寺子屋運動に協力

書き損じ葉書・1円募金等

環境保全グループ

昨年、日常生活と地球環境との深い関りについて関心を高めることが大切であると考え、さまざまな運動に同調して積極的に参画し、意識の高揚と活動の普及・啓蒙に努めてまいりましたが、昨今エコカーという水素を燃料とする車が開発され、交通問題が引き起こす様々な公害を国としてまた企業として取り組み、地球をクリーンにしようという運動が世界規模で実施されております。

環境問題グループはそのような時代背景も踏まえて活動してまいります。

- 1・環境問題に対する会員の意識高揚
- 2・「豊かな環境づくり大阪府民会議」の重点行動目標に協調した運動の推進
- 3・環境問題に積極的に取り組んでいる企業訪問
- 4・おおさか環境賞対象クラブの推薦
- 5・世界環境デー6月の環境月間の運動への参画

当地区における交通問題特別委員会の活動も、日本のロータリー活動としては、はじめての取り組みとして発足し、以来丸6年を経過致しまして、「交通戦争の中で、私達一人一人が自覚を持ち、交通法規の遵守につとめ、交通災害を減らし、地域社会にどうすれば貢献できるか」という会員の皆さま方のご理解・ご関心も定着して来つつあり、個人レベルからクラブレベルへ、次は、地区全体の活動のレベルまで高める活動を本年も継続してまいりたいと考えております。地域の警察署または交通安全協会の主催されている「無事故・無違反コンテスト」への積極的参加をお願いしたい。

また先程触れました環境問題との兼ね合いもありますので、毎月20日に実施されておりますノーマイカーディにロータリアン全員のご協力をお願いしたいと思います。

皆様方のご理解とご指導ご鞭撻によりまして尚一層充実した社会奉仕活動に努めてまいりたいと思います。

青少年奉仕部門

顧問 パスト・ガバナー 大森 慈祥 (茨 木)

新世代合同委員長会議

議 長 大 森 慈 祥 (茨 木)
委 員 北 山 孝 和 (大 阪 中 央)
同 石 田 肇 (東 大 阪 東)
同 松 林 寛 (大 阪 南)
同 近 藤 眞 道 (高 槻 西)
同 佐 藤 俊 一 (大 阪 鶴 見)
同 野 村 浩 司 (大 阪 ね ぎ ぎ)
同 山 本 和 雄 (大 阪 な に わ)

各委員会の横の連絡を密にし、新世代関係各委員会の活動を効果あるものにするため、以下の活動を計画した。

1) 合同会議の開催

年間3回開催し、各委員会の活動について報告しあい、各委員会の活動を理解しあう。

2) 各委員会の会議に出席

各委員会の会議に委員がオブザーバーとして出席する。

3) 各委員会の行事に参加

各委員会が開催する行事に参加することによって他の委員会の活動を理解する。

青少年活動委員会

委員長	北山孝和 (大阪中央)	委員	片岡亥一郎 (大阪堂島)
副委員長	泉博朗 (大阪住吉)	同	野原嗣久 (豊中千里)
委員	氏野隆司 (東大阪西)	同	吉岡康雄 (大阪西北)
同	渡邊哲也 (交野)	同	久保義誓 (茨木)
同	津本清次 (大阪淀川)	同	櫛田雄一 (大阪阿倍野)
同	西尾隆善 (大阪船場)		

1) 少年少女ニコニコキャンプ

日時	2003年8月8日(金)～8月10日(日)
場所	茨木市茨木青少年野外活動センター
ホストクラブ	茨木ロータリークラブ
対象	小学生4、5、6年生
リーダー	ローターアクター、上級ライラ修了生

2) 秋のライラ

日時	2003年9月13日(土)～9月15日(月)
場所	大阪市立舞洲野外活動センター
ホストクラブ	大阪堂島ロータリークラブ
初級ライラ 対象	青少年(18才～30才)
リーダー	専門スタッフ、上級ライラ修了生
上級ライラ 対象	初級ライラ修了生
リーダー	専門スタッフ

3) 春のライラ

日時	2004年5月3日(月)～5月5日(水)
場所	大阪府立青少年海洋センター
ホストクラブ	豊中千里ロータリークラブ
初級ライラ 対象	青少年(18才～30才)
リーダー	専門スタッフ、上級ライラ修了生
上級ライラ 対象	初級ライラ修了生
リーダー	専門スタッフ

4) 第1回クラブ青少年活動委員会正副委員長会議

日 時 2003年9月13日(土)
場 所 大阪市立舞洲野外活動センター

5) 第2回クラブ青少年活動委員会正副委員長会議

日 時 2004年5月3日(月)
場 所 大阪市立舞洲野外活動センター

ローターアクト委員会

委員長	石田 肇 (東大阪東)	委員	渡部 富士雄 (大阪住吉)
副委員長	磯田 郁子 (大阪東淀)	同	高良 尚志 (大阪天満橋)
同	高橋 敏朗 (守口)	同	齋城 正之 (豊中-大阪国際空港)
委員	岩津 陽介 (大阪御堂筋)	同	高谷 晋介 (大阪西南)
同	大森 保子 (茨木西)	同	湯木 尚治 (大阪)
同	西口 宗宏 (大阪中央)		

*基本方針

本年度は、6月に開催される国際大会のローターアクト会議を近隣4地区のローターアクトにてホストをする重要な年度である。海外及び全国からのローターアクターをお迎えする準備をするという視野を全世界に大きく広げた活動、そして何よりも多数のお客様を迎えるに当たり、当地区のローターアクトの活動を原点から見つめ直し、全世界のローターアクトの模範となるような、各クラブの基本的な活動を充実させることが不可欠と考える。ローターアクトクラブの会員は、30歳になると卒業という規定があり、常に新しい会員の補充をしなくてはならず、会員数もピーク時から比べると減少傾向にある。

対外的なプロジェクトを展開すると同時に、各ローターアクトクラブに提唱ロータリークラブとの連携した共同奉仕活動を軸に、交流を図りローターアクトの活動を認識していただき、会員増強に組織だった協力体制を整備していく。

そのためには、地区と各クラブとの連絡・協力関係を密にし、特にメンバーの少ないクラブの増強を計るアドバイスをを行い、個々のクラブ活動を支援する。

今年度地区ターゲットを

「be smiling ～笑顔でいこう!～」

(笑顔には人を惹きつけたり、元気を与えてくれる力があります)

素敵に笑顔に出会える地区、そんな地区を目指したい)

とし、活動計画を組み立てました。

*活動計画

1. 活動の基盤は個々のクラブであるという認識を各クラブに徹底し、クラブ活動の活性を計る。
2. ローターアクトクラブの永遠の課題である会員増強を提唱ロータリークラブと共に計る。
特に、会員数が15名以下のクラブには強力に会員増強をお願いする。
3. ロータリークラブとの共同奉仕活動を推進して、共同プロジェクトを組むことにより、ローターアクトの活動をロータリアンに理解を深めてもらう。
又、未提唱ロータリークラブにもPRを積極的に行い、ローターアクトの活動を理解してもらう。
4. ローターアクト必携の各クラブへの購入依頼、昨年度作成した2660地区ローターアクトガイドブックにより、ローターアクトの基礎知識の勉強する機会を多く作る。
5. ローターアクトのOB会を充実して、現役ローターアクターとの交流を深め、適切なアドバイスをいただき、活動の参考にしていく。
6. 地区行事の数が多いと思われるので、統合できる行事は統合し、地区行事をスリム化する。
7. 海外研修を通じ現地ローターアクターとの交流と共同奉仕活動を通じてローターアクトの国際感覚の養成を計る。
8. 他の青少年奉仕部門の委員会とも連絡を密にして、情報交換や相互強力を計り、ローターアクト委員会がリーダー的な役割をはたしていく。
9. 国際大会を成功させるため、提唱ロータリークラブ・各ローターアクトクラブ・近隣4地区との連絡を密にして充実した活動をしていく。

国際ロータリー第2660地区ローターアクト 2003～2004年度 行事予定表

年	月	日	曜日	行 事 名	ホ ス ト
03	7	13	日	第一回地区献血	大阪住吉RAC
		13	日	第一回地区連絡協議会	吹田RAC
		26	土	第一回RAC正副委員長会議	地区RA委員会
	8	8～10	金～日	少年少女ニコニコキャンプ	茨木RC
	9	7	日	全国統一アクトの日	大阪淀川RAC
		13～15	土～月	秋のライラ	大阪堂島RC
	10	19	日	2640・2660地区交流会	2660地区RA
	11	14～15	土～日	RC地区大会	大阪東RC
21～24		金～月	地区国内研修	RA地区役員	
04	1	24	土	第二回RAC正副委員長会議	地区RA委員会
	2	21～22	土～日	第16回全国ローターアクト研修会	第2500地区
		29	日	第二回地区献血	大阪梅田RAC
		29	日	第二回地区連絡協議会	大阪西南RAC
	3	14	日	世界RAC DAY	東大阪東RAC
	4	18	日	新旧役員研修会	大阪東RAC
	5	3～5	月～水	春のライラ	豊中千里
		20～22	木～土	国際大会前RA会議	2640・2650・2660・2680RA
		20～22	木～土	国際ライラ	
		23～26	土～火	RC国際大会	2640・2650・2660・2680RC
	6	13	日	地区年次大会	茨木RAC
		27	日	リーダーシップフォーラム・新人研修会	守口RAC

委員長

副委員長

幹事

副幹事

委員

国際ロータリー第2660地区ローターアクト委員会

(OR代表) 第一副幹事 副幹事 幹事 副幹事 幹事 副幹事 幹事 副幹事 幹事

副委員長 幹事

副幹事 幹事

副幹事

副幹事 幹事

副幹事 幹事

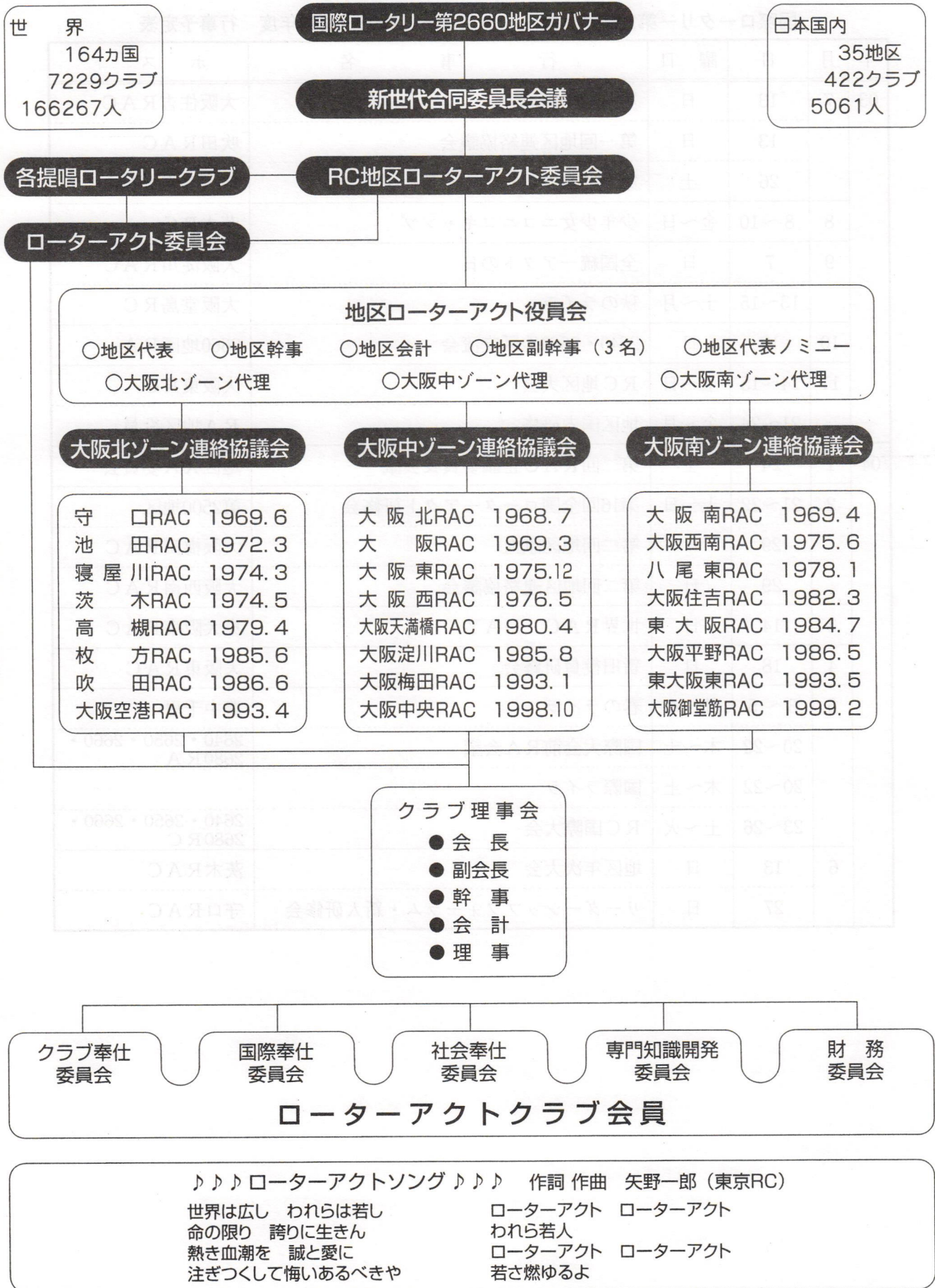
副幹事 幹事

副幹事

副幹事 幹事

国際ロータリー第2660地区ローターアクト委員会 (OR代表) 第一副幹事 副幹事 幹事 副幹事 幹事 副幹事 幹事 副幹事 幹事

組 織 図



注) RCはロータリークラブ、RACはローターアクトクラブを略しております。

インターアクト委員会

委員長	松林	寛	(大阪南)
副委員長	吉中	春美	(大阪南西)
委員	高島	登	(大東)
同	西尾	良一	(大阪住吉)
同	仲野	欣弥	(大阪阪南)
同	畑中	裕昭	(八尾)

□活動方針

1. 当地区のインターアクトクラブは全て学校を基盤としています。このため、提唱各ロータリークラブが各学校の実情に沿い、学校長や顧問の先生方と連携・協調して、インターアクトの活動を推進することを奨励します。
2. 教育環境の変化や生徒数の減少等がインターアクトクラブの活動にも影響を及ぼしています。また、廃部や休部に至ったクラブもあります。こうした状況に鑑み、インターアクトクラブの活動が、より多くのロータリアンの支持と理解が得られるように努めます。また、新クラブが誕生するよう努めます。
3. 下記に掲げる活動計画（地区行事）の実施に際して、提唱ロータリークラブ・担当インターアクトクラブの意見を尊重し、個性溢れるものとなるよう支援します。

□活動計画

1. 地区大会

提 唱：大阪南西ロータリークラブ

担 当：四天王寺羽曳丘高校・中学インターアクトクラブ

期 日：2003年11月3日(日)

会 場：四天王寺

2. 海外研修

(諸般の事情により海外研修は中止し、国内研修を行う)

提 唱：大阪住吉ロータリークラブ

担 当：浪速中学・高等学校インターアクトクラブ

期 間：2003年8月3日(日)～8月7日(木)

研修先：国際ロータリー第2500地区（北海道東部）

3. 地区インターアクト活動報告書〈SCRUM〉No.28の発行

提 唱：八尾ロータリークラブ

担 当：金光八尾中学・高等学校インターアクトクラブ

4. 近畿4地区インターアクト委員会との交流

年間2回程度

5. 新クラブの設立に向けて

地区内インターアクトクラブが諸般の事情により、減少していることに鑑み、地区関係各位のお力添えをいただき、新クラブの設立をサポートします。

6. 会議等

ア	リーダーシップフォーラム	1回
イ	顧問会議	3回
ウ	地区委員会	4回
エ	正副委員長会議	2回
オ	近隣地区合同委員会	1～2回
カ	地区委員、正・副委員長、顧問合同懇談会	1回

国際奉仕部門

顧問 パスト・ガバナー 柏木 尚(豊 中)

国際奉仕委員会

委員長	八木 頼夫(大 阪)	委 員	西村 貞一(大 阪 東)
副委員長	毛利 哲三(大 阪 西南)	同	中西 憲治(大 阪 北)
委 員	吉川 邦英(大 阪)	同	加登 敏夫(豊 中)
同	横山 順治郎(大 阪 南)	同	中西 和也(千里メイプル)

国際理解の増進と世界平和に貢献するべく、下記の諸項についてPRし推進する。

1. On to Osaka 委員会や大会準備委員会と全面的に協力し、2004年大阪国際大会(関西)の成功に向かって最大の努力をする。
大会中は友愛の広場を中心に国際理解と友情の推進に努める。
2. 地区の世界社会奉仕・青少年交換の両委員会と密接に協力する。
3. 趣味や職業を通じ、世界のロータリアンと友好を深める。
4. 地区内クラブの姉妹、友好関係の促進および情報の提供をする。

世界社会奉仕委員会

委員長	長 澤 利 治(茨 木)	委 員	小 林 哲(吹 田 西)
副委員長	植 村 宏一郎(大 阪 平野)	同	三 村 恵 造(大 阪 西北)
委 員	瀧 田 浩 彦(東大阪中央)	同	豊 谷 久仁子(吹 田)
同	有 江 健(東大阪中央)	同	宮 里 唯 子(茨 木 西)
同	園 侯 一(大 阪 梅 田)	同	大 西 久 晴(大 阪 北 梅 田)
同	芦 邊 康 徳(大 阪 心 斎 橋)	同	宮 田 宏 章(大 阪 北)

世界社会奉仕は、ロータリークラブと地区が援助を求めている他国のロータリークラブや、地域の人々に対して生活水準を高める等の援助をすることにより、さらに両国間の国際理解を増進するために役立つプログラムです。

2003年～2004年度国際ロータリー会長の協調事項に貧困、識字率、保健、家族の4項目がありま

す。

まず、貧困を減らすことを第1目標に、第2には、教育を受けていない女性に対しての教育（識字率の向上）及び小口金融プロジェクトによって小規模の新規事業を始めることによって、貧困の悪循環を断ち切り、家族を養うことが出来ます。保健衛生の問題も含め、まさに世界社会奉仕そのものであります。

直接、援助国に出向き、現状を知ると共に、親睦を図り、ともに世界社会奉仕の成果を上げる事にあります。

ひとりでも多くの当地区クラブのロータリアンが参画し、行動することが求められていますが、あくまでもクラブが主体です。従って地区委員会はクラブ独自のプロジェクトをサポートし、地区特別基金については、出来る限りクラブと共にプロジェクトを進めていきます。

昨年度もクラブ単位、又、数クラブでのプロジェクトの実施が増加している現状の下、以下の事項を実施いたします。

- ① 財団補助金の情報については、財団人道的補助金委員会からの情報の連携を図り、各クラブに情報と活用方法を提供する。
- ② すでに今年度も多数のクラブはプロジェクトを実施する予定があると思うが、全く実施されていないクラブに対して、何らかのアプローチを行う。
- ③ 独自のプロジェクトを持たないクラブに対しては、一人当たり5,000円以上地区世界奉仕基金に拠出していただく。
- ④ 今年度R I 会長の協調事項については、地区としてもクラブに対し啓蒙する。
- ⑤ 視察の実施。

青少年交換委員会

委員長 近藤 眞道 (高槻西)

副委員長 林 輝久 (大阪東)

同 植田 豊實 (箕面中央)

委員 中 一皓 (枚方くずは)

同 須崎 洋一 (東大阪東)

委員 徳岡 昭七郎 (大阪天満橋)

同 岡田 俊作 (大阪本町)

同 武市 智寿 (大阪鶴見)

同 畑 延次 (東大阪中央)

同 土井 晶三 (高槻西)

このプログラムは、本来世界のロータリアン同士の子弟交換が始まりであります。ロータリアン同士の子弟を交換、それぞれそれら子弟を預かったホスト・クラブがいわば彼らの「里親」となって、一年間それらの子供（我々の子供）を育て上げることを目的としたのが始まりであります。この意味では、いわゆる勉学を目的とした「留学制度」とは成り立ちが異なります。

ロータリーは奉仕団体であり、其の理念を反映してロータリー財団奨学制度や米山奨学会等のプ

プログラムにはロータリアンの子弟は参加できませんが、この青少年交換プログラムはロータリアンの子弟が参加できるのが特徴です。現在ではロータリアンの子弟だけにとどまらず、一般の青少年も参加しており、全世界で年間8千名を超える若人達がこのプログラムに参加しており、世界で最大の交換プログラムと考えられます。

15歳-18歳と言う人生で最も感受性の強い時期に、世界のロータリアンが我々の子供たち・青少年を互いに預けあい、それぞれ異国の地で彼らを自分の子供として将来立派な社会人に共に協力して育て上げることは、青少年教育の立場からも重要でありましょう。

ロータリーでは青少年を育てるプログラムとしては、皆様御存知の様に「新世代のためのプログラム」としてインターアクトやローターアクト等のプログラムがあります。この青少年交換プログラムも新しいロータリーの手続要覧では、「国際奉仕部門」ではなくこの「新世代プログラム」の一つとして位置づけられています。この事はロータリーが青少年教育を重要視していると思われませんが、とくにこの青少年交換プログラムに於いては、我々ロータリアンの子弟を将来のロータリアンにするために、いわばロータリアンの立派な二世を育て上げることが可能な点にもこのプログラムの特徴であります。事実世界には、かつての青少年交換学生であったロータリアンが多くおられます。

このような当プログラムの理念を現実のものにするために当年度は下記の具体的活動を行います。

I. 基本方針、条件

- (1) 受入13人、派遣学生を13人とする。
- (2) 受入、ロータリークラブへの補助金を60万円／1人とする。
- (3) 各クラブよりのファンド受入金は2,500円／人とする。
- (4) 地区委員会メンバーの各行事・旅行等の参加については原則として実費を各委員が負担するものとする。
- (5) 受入学生は、年3回の宿泊旅行（現在は広島、スキー、富士登山）代として実費相当分800ドルを持参してもらおう。(300ドル緊急時資金・1,500ドル旅行費用負担)
- (6) 派遣学生からはプログラム参加費として1人当たり100,000円徴収する。
- (7) 行事参加ロータリアン、ローテックスからも応分の負担をお願いする。
- (8) 各行事については、受益者負担を前提とし不足分を補助にしてコストをできる限り下げるべく努力する。
- (9) 従来、行なっていた新年会はとりやめる。
- (10) ROTEX会報「快-ho」の発行を年1回とする。
- (11) ローテックス運営費補助を50万円から40万円に下げる。(ホームページ管理費用を含む)

ロータリー財団部門

顧問 パスト・ガバナー 中野 董 夫 (大阪阪南)

ロータリー財団委員会

委員長 居 相 英 機 (八 尾)
副委員長 横 山 守 雄 (大阪中央)
委 員 山 本 公 平 (大阪北)
同 佐 藤 俊 一 (大阪鶴見)
同 野 村 浩 司 (大阪ねざき)
同 中 西 藤 和 (大阪梅田)

基本方針

1. 地区ロータリー財団委員会は、昨年度より小委員会の活動の効率化を図り、併せて経費の削減をはかる新方針のもとに7つの小委員会から4つの小委員会（財団情報・増進委員会、財団奨学金・学友委員会、研究グループ交換委員会、財団法人道的補助金委員会）に再編成され、その役割は、4つの小委員会と連携を密にしながら統括し、地区の財団活動が円滑に機能するように果たすことです。

そして、本年度より当委員会DRFC（District Rotary Foundation Committee）は、地区財団活動資金DDF配分と用途を決定する責務を負います。

2. ロータリー財団の目標は、博愛、慈善、教育または人道的という特質をもつ明確かつ効果的な3つのプログラムの促進を通じて、さまざまな国の国民の間に理解と友好関係を助長することにあります。

(1) 教育的プログラムは、国際親善奨学金、国際問題研究のためのロータリーセンター、大学教員のための補助金、研究グループ交換の各プログラムです。

(2) 人道的補助金プログラムは、本年度から新しい補助金制度がスタートし、地区補助金、個人向け補助金、マッチング・グラントの3種類となり、従来のプログラムは廃止されます。

(3) ポリオ・プラス・プログラム。

活動計画

1. 地区財団活動資金DDFが60%から50%に引き下げられるので、これに伴う活動資金の減少へ

の対応をはかりたい。

(1) 当地区のクラブで財団年次寄付が1人当たり100ドル未満のクラブに対し、100ドル達成をお願いする。

(2) ロータリークレジットカード加入の勧誘をはかりたい。

2. 本年度より新しい人道的補助金制度がスタートしますので、その理解と促進に努める。

(1) 地区補助金、個人向け補助金、マッチング・グラントについて理解を深め、各クラブに向けて活用の拡充をはかりたい。

会員委員会・金庫奨励組

財団情報・増進委員会

委員長 山本 公平 (大阪北)
副委員長 井川 孝三 (八尾)
委員 西森 喜一 (大阪難波)
同 松原 貞一 (大阪柏原)
同 岸本 健之亮 (大阪北梅田)
同 大東 敏男 (大阪城南)

次年度委員会活動計画

財団の4委員会との連携を密にしながら地区各クラブの財団委員会を通じて、ロータリー財団情報を提供し、財団活動に対する理解と浸透に努力する。

又、増進については地区目標を達成すべき為、より一層の増進を図りたい。

◎活動計画

- ・情報・増進委員会の開催 (年3回)
- ・地区ロータリー財団セミナー (8月、各クラブ会長、財団委員長の出席)
- ・ロータリー財団委員長会議の開催 (12月)
- ・ロータリー財団月間、IM (8ブロック) にて情報提供の機会を活用する。

◎地区募金目標

- ・年次寄付目標額 54万ドル
- ・年次給付 一人あたり 120ドル
- ・ベネファクター 各クラブ 1名以上
- ・大口寄付 1名

寄付は今日の財団プログラムを支えている年次寄付と明日の財団プログラムを安定させるものとしての恒久基金の2つに大別されます。

恒久基金はロータリー設立100周年にあたる2005年までに米貨5億ドルの目標設定がなされ、又ポリオ撲滅も2005年となっていますので、この恒久基金の充実を図る為、ベネファクター・大口寄付の推進が重要となってきています。そして同時に、投資収益が期待できない現在では、年次寄付（毎年プログラムに全額使用している）の増進も併せて重要となっています。

財団奨学金・学友委員会

委員長	佐藤俊一（大阪鶴見）	委員	岡田東一（大阪）
副委員長	溝畑正信（東大阪東）	同	岩本洋子（大阪そねざき）
委員	梅崎道夫（大阪城南）	同	坂井孝彦（東大阪）
同	佐藤秀雄（茨木西）	同	島井宏子（大阪北梅田）
同	榊原春枝（大阪柏原）	同	栢本淑子（吹田江坂）

以下のような活動を計画している。

1. ロータリー財団国際親善奨学生の選考とオリエンテーション

*2005～06年度ロータリー財団国際親善奨学生の募集及び選抜試験

年々減少の傾向にある財団の限られたシェアーのなかで、いかに優秀で質の高い奨学生候補を選ぶかがこの委員会の重要な役割と考え、取り組んでいきたい。

*本年選抜された2004～05年度奨学生にたいしては、3回にわたるオリエンテーションを開催し、顧問ロータリアンと共に国際親善大使としての役割と、ロータリー財団の意義について認識していただく。

2. ロータリー平和奨学生の選出

このプログラムが始まり3年を経過しているが、第2660地区では平和奨学生をまだ輩出していない。なんとか第二の緒方貞子氏を目指せるような人を推薦したい。

3. 来日文化研修生の受け入れ

例年数名の日本語研修を目的とした学生が来日するので、世話クラブと受け入れ学校のYWCAと協力して所期の目的を達成したい。

4. PSCの発展と充実を計るため以下の活動を行う

*RI2004年国際大会（関西）の協力

過去多くの国に留学したPSCメンバーの経験を生かし、大会中はボランティアとして活躍していただく。

*奨学生候補と先輩であるPSC会員との交流の機会を多く作り、留学に際しての情報交換の場

とする、また、メーリングリストを通じてより具体的なノウハウを提供する。

*PSC日より、地区のホームページ、ロータリー財団学友会名簿などでPSCの活動を知ってもらう。

*ロータリー財団月間や世界理解月間にはPSC会員の卓話を奨励し、各クラブにもそれをPRする。

5. ロータリー財団セミナー、クラブロータリー財団委員長会議など地区行事を通じ、当委員会の活動を広く理解していただき、ひいては財団活動に協力していただくよう啓蒙につとめる。

財団奨学金・学友委員会行事予定

日	時	行 事	場 所
2003年			
7月12日	土	第1回財団奨学金・学友委員会 平和奨学生選考会	ガバナー事務所
9月6日	土	第2回財団奨学金・学友委員会 第1回オリエンテーション PSC総会・懇親会	国際交流センター
12月6日	土	第3回財団奨学金・学友委員会 第2回PSC例会 帰国奨学生報告会	未 定
2004年			
3月6日	土	第4回財団奨学金・学友委員会 第2回オリエンテーション 第3回PSC例会・交流会	
4月20日	火	第5回財団奨学金・学友委員会	ガバナー事務所
5月16日	日	05～06年度国際親善奨学生一次試験	
6月13日	日	同 上 二次試験	
6月26日	土	第5回財団奨学金・学友委員会 第3回オリエンテーション 第4回PSC例会 派遣奨学生歓送会	

研究グループ交換委員会

委員長	野村浩司	(大阪そねざき)
委員	松岡茂雄	(大阪鶴見)
同	野村正勝	(箕面中央)
同	田中潤治	(大阪西北)
同	吉田弘	(枚方)
同	松井隆雄	(大阪天王寺)
同	宮田宏章	(大阪北)

1. 交換組合せ

本年度は大阪において国際大会が開催の為、GSE（研究グループ交換）は派遣及び受入は実施しない。

2. GSEの基本方針

- (1) 2003年1月25日にGSEのOB・OGの人達をより一層将来のロータリーの活動に参加していただく為にGSEアルムニ会の創立総会を開催した。本年度はアルムニ会の充実を1歩前進させたい。
- (2) 地区大会ではGSEとしてのパネル展示及び当地区GSE活動のVideo上映を実施。(パネル製作、Video製作)
- (3) 11月のロータリー財団月間にはGSEアルムニ会のOB・OGの卓話の派遣。
- (4) 財団小委員会との協力。
- (5) 新世代合同委員会との協力。
- (6) 国際大会への協力。(主としてGSEアルムニ会のOB・OGの参加協力)。
- (7) その他、必要な場合活動を行う。

3. 2004-2005年度及び2005-2006年度、派遣及び受入れはオーストリアの地区の一つと交換予定の為、本年度より各地区と交渉を始める。

この地域の地区に適切な交換地区がない場合は(米国、英国、カナダ)いずれかの地区をさがす。

GSE（研究グループ交換）プログラムとは：

事業および専門職職務経験の浅い25才から40才までの若い人たちにとって、文化と職業のまたとない交流の機会です。このプログラムは異なる国々の中で組み合わせられた地域を訪問するため、若い参加チームに旅費として補助金を支給します。チーム・メンバーは4週間から6週間にわたり、ホスト国の各種施設、生活様式について学び、自分の職業が他国でどのように実施されているかを見学し、個人的並びに専門職上の関係を築き、アイデアを交換します。

財団法人道的補助金委員会

委員長	中西藤和	(大阪梅田)
副委員長	増本猛	(茨木東)
委員	岡本健治	(大阪東南)
同	大谷透	(大阪西南)
同	白方誠彌	(大阪淀川)
同	津田宏	(大阪梅田東)

活動計画

- 2003-04年度で2660地区が利用できるDDFの内、人道的分野に配分される金額は\$140,000で、内訳は下記の通りである。地区WCS委員会及び地区社会奉仕委員会と密接に連絡を取りつつ、各クラブの社会奉仕、世界社会奉仕活動に有効かつ公平に役立つように努力する。

地区補助金	\$ 70,000
マッチング・グラントー提唱者側の負担分	\$ 60,000
災害援助	\$ 10,000
合計	\$ 140,000

- 2003-04年度より人道的分野の補助金は、新しく地区補助金、個人向け補助金、マッチング・グラントの3つになる。

- (1) 地区補助金 (District Simplified Grants:DSG) 財源はDDF

地区が前もって財団本部よりDDFを受領しておいて、クラブが社会奉仕、国際奉仕（ロータリークラブが存在しない外国）のプロジェクトに対して活用できる補助金。

地区が申請を受付、審査し許可されれば、すぐ補助金が受けられる。補助金の支出後2ヶ月以内に最終報告書の提出が義務づけられる。地区補助金は、多くの方々に活用頂ける様に1件あたり\$3,000程度とする。

- (2) 個人向け補助金 (Individual Grants:IG) 財源はWF

奉仕プロジェクトを立案、実施するロータリアンの旅行費用を援助する補助金。

滞在期間に基づき補助金は\$1,200～\$5,000をうけられる。補助金の支出で認められるのは、エコノミークラスの航空運賃と最小限の生活費。申請書には、プロジェクト実施地のロータリークラブ会長の招請状が必要である。補助金を受けるためには、出発予定日の4ヶ月前に申請書を提出し、出発予定日の8週間前に承認を得ておく事が必要のため、時間に余裕を持った申請作業を啓蒙する。

- (3) マッチング・グラント (Matching Grants:MG) 財源はWF (DDFを付加できる)

- ・小口マッチング・グラント \$2,000以下
- ・大口マッチング・グラント \$2,001～\$25,000

・大口マッチング・グラント \$25,001 - \$150,000 (競争制)

2 カ国のロータリークラブ又は地区が行うWCSプロジェクトに対して援助される補助金で、資金の現金部分には50%、DDF部分には100%がWFより授与される。大口のマッチング・グラント (\$2,001 - \$25,000) へのDDFは、多くの方々に活用頂ける様に 1件当たり \$3,000程度とする。小口のマッチング・グラントは大口のマッチング・グラントが、物品と業者の氏名を列記した詳細な予算書が必要なのに対して、物品を列記した予算書でよく、また申請書の書式自体も簡素化され申請がやり易くなる。小口のマッチング・グラントへのDDFは、多くの方々に活用頂ける様に 1件当たり \$1,500程度とする。

3. 委員会開催予定は下記の通り、定例6回、内3回は地区WCS委員会との合同。

7月9日、9月10日 (WCSと合同)、11月12日、1月14日 (WCSと合同)、3月10日、6月9日 (WCSと合同)。

米山奨学部門

顧問 バスト・ガバナー 熊澤忠躬(守 口)

米山奨学委員会

委員長 山本和雄(大阪なにわ)
副委員長 北川哲(大阪南)
委員 池原保三(大阪イブニング)
同 平田啓治郎(大阪西南)
同 長谷川暉郎(高槻東)
同 永江溥(大阪天満橋)
同 中澤章好(大阪住吉)
同 岡田義昭(大阪淀川)

活動方針

- ① 奨学寄付金の確保充実を計る。
- ② 奨学生の選考。
- ③ 奨学生に対する充実した指導や助言を行い、奨学生と世話クラブ及びカウンセラーとの円滑なコミュニケーションをはかれる様協力調整する。
- ④ 学友(関西)との連絡及び連携の充実にあたる。

活動計画

I. 募金目標

- 1人当たり 2万円(普通寄付と特別寄付の合計額)
 - ① 普通寄付 1人当たり5千円以上願います。
 - ② 特別寄付 準米山功労者にクラブ会員の皆さん全てになって頂く様協力要請し、又米山ファンドフェロー、米山功労者や米山功労法人、準米山功労法人等になって頂くようお願いする。

II. 2004年度米山奨学生選考試験

- ① 申込期間 2003年10月1日～10月6日
- ② 書類審査 2003年11月 地区委員に依る資格審査と申込書チェック
- ③ 書類選考会議 2003年12月

④ 面接試験 2004年1月

⑤ 最終選考会議 2004年2月

III. 米山月間 2003年10月1日～10月31日

① 各クラブにお世話頂いております米山奨学生か米山奨学委員長に依る卓話をお願いします。

② 米山奨学事業へのご理解と特別寄付のご協力をお願いします。

③ 地区委員、米山奨学生、学友（関西）の卓話斡旋をする。

IV. 2003年度米山奨学生（2003年4月～2004年3月）

継続受給者 13名

新規奨学生 29名

クラブ米山奨学生 5名

特別米山奨学生 —

計 47名

行 事 日 程

年 月 日	行 事	備 考
2003年 7月	2003年学友会（関西）総会及び 新規奨学生歓迎パーティ	
7月22日(火)	米山奨学生カウンセラー研修会	葉業年金会館
10月1日(水)～31日(金)	米山月間	
10月1日(水)～6日(月)	2004年度米山奨学生募集	
10月5日(日)	米山奨学生レクリエーション	宝塚大劇場
2004年 1月18日(日)	米山奨学生面接試験	大阪YMCA
2月22日(日)	米山奨学生修了者歓送会	
2月	米山奨学生最終選考	
3月	米山奨学生新規世話クラブ決定	
5月23日(日)	米山奨学生オリエンテーション	

On to Osaka 委員会

委員長 丹羽 一郎 (大阪東)
副委員長 笹井 敏之 (大阪フレンド)
委員 枇榔 五郎 (豊中)
同 波々伯部 廣行 (高槻)
同 水尾 祥一 (枚方)
同 井川 孝三 (八尾)
同 廣田 元孝 (大阪北)
同 川上 善司 (大阪平野)

四半世紀ぶりに日本で開催される国際ロータリー2004年国際大会(関西)は、2640地区2650地区2680地区のロータリアンとともに私たちが、ホスト役を務めなくてはなりません。当委員会は各組からの8人のメンバーで構成されていますが、それぞれの組での国際大会参加推進役として来年5月26日の国際大会閉会式まで全力を尽くしてまいります。

北は北海道東部の2500地区、北海道西部の2510地区から、南は宮崎・鹿児島県の2730地区、沖縄の2580地区に至る34地区にOn to Osaka (Kansai) 委員会が設けられています。

全国の委員会との良いコミュニケーションに努め、国際大会を大いに盛り上げたいと思います。

地 区 大 会

委員長 河上英夫(大阪東)
幹事 山縣平蔵(大阪東)
プログラム
委員長 小濱雅之(大阪東)

☆日程・開催場所及び内容について

第1日目

2003年11月14日(金) 於：帝国ホテル大阪

内容：分科会・家族のつどい

R I 会長代理ご夫妻を迎えて(チャリティー晩餐会)

第2日目

2003年11月15日(土) 於：NHK大阪ホール

内容：本会議・講演等

☆登録について

任意登録

登録料は一人8,000円、地区資金は一人7,000円とする。

ロータリーの友

地区委員 瀬戸 孝太郎 (大阪 東)

合同会議への参加

合同会議（委員長、副委員長、特別顧問、顧問、常任委員、地区委員）に出席致します。合同会議は、原則として、7月1日（上記メンバーに新ガバナー、日本選出の新旧R I理事・エレクトも参加）、11月、2月、5月の第2月曜日で、年4回行われます。

ガバナーおよびその地区内会員との意思疎通をはかります

ガバナーはじめ雑誌委員長・委員、各委員会、会員の意見を地区内から広く集め、合同会議、その他で発表致します。と同時に、『ロータリーの友』に関するすべての情報をガバナーに文書または口頭で報告致します。

地区における役割

『ロータリーの友』およびその出版物や事業への理解を深め、広く機会を求め、地区内会員への広報ならびに利用促進活動につとめます。そのために、

- ① 地区大会、地区協議会など地区内の各種会合に参加し、関連委員との連絡を密にし、地区の状況を『友』に発表します。
- ② ガバナー月信を通じて『ロータリーの友』に関する情報を提供します（ロータリーの友委員会の報告、ロータリーの友出版物のPRなど。）
- ③ 地区またはクラブのロータリー情報委員会、広報委員会、雑誌委員会、会報委員会など関連委員会とは特に連絡を密にすることにより、ニュース源や協力者を確保します。

刊行物の編集に参画

「地区のたより」1地区または数地区合同で奉仕活動の理論や具体的事例について年1回出稿しますが、当2660地区は2003年12月号に掲載されます。

「わがまち わが地区」地区内での珍しい年中行事や郷土自慢、その他全国の会員に是非紹介したいトピックスを年1回出稿します。当地区の掲載は2003年5月号です。

※来年5月R I 2004年国際大会が4地区合同で大阪を主会場として開かれます。4地区のロータリー

財 務 委 員 会

委員長 林 恭 造 (大 阪 東)
委員 藤 満 宣 夫 (千 里)
同 橋 田 圭 児 (大 阪 北)
会 計 高 野 正 康 (大 阪 東)

(予算編成方針)

地区財政が健全でなければ、地区運営や諸活動を充分行うことが出来ません。ところが厳しい経済環境の影響もあってか会員数は漸減しており、前年度において大幅な緊縮予算を余儀なくされました。当年度においても各クラブの懸命の努力にもかかわらず会員の減少が予想されるため、前年予算編成時会員数4,800名のところ当年度は4,400名を基本に予算編成し、地区資金人頭分担金の値上げもすることなく会員皆様のご協力を得て収支均衡となるよう予算を編成しました。

〔1〕 一般会計

前年度から一般会計は地区運営資金・地区活動資金・地区大会資金の3項目に区分され、予算編成や予算管理面において非常に判り易くなりました。当年度もこの区分を踏襲させていただきました。

- ① 地区運営資金は、会員数減少予想による収入予算前年比320万円の減少を主としてガバナー・ガバナーエレクト事務所経費の縮減で補うこととしました。
- ② 地区活動資金は、収入予算前年比300万円減少のところ、各委員会の絶大なる協力があり、また、当年は大阪で国際大会が開催されるためGSE（研究グループ交換）が実施されないこともあって、収支均衡予算を組むことが出来ました。
- ③ 地区大会資金は、地区大会が平成15年5月と11月に立て続けに開催され、また来年5月には世界大会も開催されることもあり、会員の負担を少しでも和らげるため人頭分担金は7,000円とし、大会参加者から8,000円の登録料をいただくこととし、1,800人程度参加の4,600万円の予算を組みました。

〔2〕 特別会計

- ① 青少年交換ファンドは約2,000万円の収入予算に対応し、受入クラブへのファンド戻し金を前年の1,200万円（80万円×15名）から780万円（60万円×13名）に減少させて対応しても

らいました。青少年交換ファンドは地区活動資金の人頭負担金7,500円の内から2,500円分が
充てられており、特別会計というより一般会計の地区活動資金、地区委員会活動費としても
良かったのですが、前年通り特別会計としました。

② 世界社会奉仕活動は本来クラブが自主的な活動として行うという建前から世界社会奉仕基
金を地区資金として基本的に受入れないこととし、一応予算上は150万円計上するに止めま
した。

③ 米山奨学生活動費は210万円の予算としました。

〔3〕 地区基金会計

前年度において、地区活動の緊急資金不足に備えて地区資金が設けられましたが、当年度は
組入はしていません。

(地区財務委員会の活動計画)

(1) 年度予算編成の周知徹底

(2) 各資金予算の適切な執行管理

を行うことにより地区会計の健全性を確保します。

2003~2004年度 国際ロータリー第2660地区 地区資金予算

自 2003年7月1日
至 2004年6月30日

地区運営資金

【収入の部】 (単位:円)

科 目	金 額
1. 地区資金 8,000円×4,400名	35,200,000
2. RI助成金	1,800,000
3. 雑収入	3,000,000
収 入 合 計	40,000,000

【支出の部】

科 目	金 額
A. 負担金	
1. ガバナー会	960,000
2. ローターリー文庫	1,320,000
小 計	2,280,000
B. 会議費	
1. 地区チームLTS	70,000
2. 会長エレクトTS	800,000
3. 合同地区委員会	1,000,000
4. 財団セミナー	450,000
5. DGPGGE会議	1,800,000
6. G補佐・地区幹事会	100,000
7. GE国際協議会	830,000
8. 予備費	200,000
小 計	5,250,000
C. ガバナー・ガバナーエレクト事務所費	25,400,000
D. ガバナー月信費	6,000,000
E. ガバナー補佐経費	500,000
F. 総予備費	500,000
支 出 合 計	39,930,000
年度収支差額	70,000
前期繰越金	1,011,000
次期繰越金	1,081,000

ガバナー・ガバナーエレクト事務所経費

科 目	金 額
1. 家賃・光熱費	5,260,000
2. 給料・手当	12,000,000
3. コンピューター関係	360,000
4. DG交通会合費	900,000
5. 印刷費	1,800,000
6. 交通通信費	1,800,000
7. 文献費	180,000
8. 事務用品費	1,000,000
9. 什器備品費	300,000
10. 雑費	1,400,000
11. 予備費	400,000
合 計	25,400,000

地区活動資金

【収入の部】 (単位:円)

科 目	金 額
1. 地区資金1人7,500円×4,400名	33,000,000
2. 雑収入	0
収 入 合 計	33,000,000

【支出の部】

科 目	金 額
A. 地区委員会活動費	
1. DG指名(委)	135,000
2. 意義ある業績賞(委)	45,000
3. クラブ奉仕部門	
クラブ奉仕(委)	600,000
拡大・増強(委)	230,000
情報・広報(委)	550,000
4. 職業奉仕部門	
職業奉仕(委)	160,000
5. 社会奉仕部門	
社会奉仕(委)	1,300,000
6. 青少年奉仕部門	
新世代合同委員長会議	34,000
青少年活動(委)	2,925,000
ローターアクト(委)	5,000,000
インターアクト(委)	2,400,000
7. 国際奉仕部門	
国際奉仕(委)	140,000
世界社会奉仕(委)	440,000
青少年交換(委)	300,000
8. ローターリー財団部門	
ローターリー財団統括会議	100,000
財団情報・増進(委)	80,000
財団奨学金・学友(委)	1,700,000
研究グループ交換(委)	1,000,000
財団人道的補助金(委)	290,000
9. 米山奨学部門	
米山奨学(委)	575,000
10. 予備費	700,000
小 計	18,704,000
B. 青少年交換ファンド	11,000,000
C. RI会長DG強調事業費	1,600,000
支 出 合 計	31,304,000
年度収支差額	1,696,000
前期繰越金	0
後期繰越金	1,696,000

地区大会資金

【収入の部】 (単位:円)

科 目	金 額
1. 地区資金 7,000円×4,400名	30,800,000
2. 参加者登録料 8,000円×1,800人	14,400,000
3. 雑収入	500,000
収 入 計	45,700,000

【支出の部】

科 目	金 額
1. 大会運営費	45,010,000
2. RI会長関係費	430,000
3. 直前DG記念品	260,000
支 出 計	45,700,000
年度収支差額	0

作成日 2003年4月19日

承認日 2003年4月19日

ガバナー 若林 紀男
地区財務委員長 林 恭造
地区会計 高野 正康

	2002年7月期初	2002年12月末
クラブ数	86クラブ	86クラブ
会員数	4,646名	4,608名

2003～2004年度 国際ロータリー第2660地区 地区基金会計及び特別会計予算

地区基金会計

【当期組入額】 (単位：円)	
科 目	金 額
前期繰越金	6,640,000
当期組入額	—
次期繰越金	6,640,000

(地区事業に関わる緊急時対策資金)

※繰越金6,640,000円のうち4,640,000円は全会員からの拠出金、
2,000,000円は青少年交換ファンドからの拠出金

特別会計

1. 青少年交換ファンド

委員会：青少年交換委員会
委員長：近藤 眞道

【収入の部】 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
前年度繰越金(概算)		4,000,000
各クラブよりのファンド受入金	2,500円/人×4,400名	11,000,000
派遣学生プログラム参加費	100,000円/人×13名	1,300,000
受入学生研修旅行負担金	50,000円/人×13名	650,000
行事参加登録料収入		640,000
会合費YEO自己負担額		395,000
研修旅行自己負担額		1,600,000
収入の部合計		19,585,000

【支出の部】

科 目	摘 要	金 額
受入クラブへのファンド戻し金	600,000円/人×13名	7,800,000
会 議 費		270,000
会 合 費		980,000
行 事 参 加 費		1,800,000
研 修 旅 行 費		2,900,000
通 信 費		300,000
事務局雑費一部負担		120,000
ローテックス運営費		400,000
派遣学生各種費用	制服、ローテックス入会金他	1,300,000
精神科ドクター顧問料		60,000
印 刷 費		300,000
雑 費		300,000
支出の部合計		16,530,000
差引 次期繰越金		3,055,000

2. 世界社会奉仕基金

委員会：世界社会奉仕委員会
委員長：長澤 利治

【収入の部】 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
特別基金		1,500,000
収入の部合計		1,500,000

【支出の部】

科 目	摘 要	金 額
支 援 金	貧困な地域に対する援助を財団補助金を有効に使用し、プロジェクトをクラブと共に進めていく	1,500,000
支出の部合計		1,500,000
差引 次期繰越金		0

3. 米山奨学生活動費

委員会：米山奨学委員会
委員長：山本 和雄

【収入の部】 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
(財)米山記念奨学会より	50,000円/人×42名	2,100,000
収入の部合計		2,100,000

【支出の部】

科 目	摘 要	金 額
米山活動費		2,100,000
支出の部合計		2,100,000
差引 次期繰越金		0

2003～2004年度 国際ロータリー第2660地区 組織図

国際ロータリー	エドヴァイン・フタ(布田)	事務総長	中 生	作 浩	次 三
会 長	ジョナサン・ブライア	理 事	菅 田	菅 田	菅 田
地区 諮 問 委 員 会					
地区ガバナー					
地区指名委員会					
地区ガバナー補佐					
地区研究					
ガバナー地区					
地区幹事					
地区事務					
地区大員					
地区大幹事					
地区協議会					
地区担当理事					
地区担当理事					

米山奨学部門 (守 口)	ロータリー財団部門 (大阪 阪南)
顧問 熊澤 忠	顧問 中野 董
国際奉仕部門 (豊 中)	青少年奉仕部門 (茨 木)
顧問 柏木 木	顧問 大森 慈
社会奉仕部門 (大 東)	職業奉仕部門 (大 阪)
顧問 松本 良	顧問 寺田 和
クローズド奉仕部門 (尾 北)	クローズド奉仕部門 (大 阪)
顧問 戸田 孝	顧問 寺田 和

米山奨学委員会 (大阪なにわ) 雄哲三 三郎 部長 (大阪 豊中) (大阪アミノゾウ) 保啓暉 章 義 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 和 保 啓 暉 章 義 本川 原 田 川 江 澤 田 北 池 平 長 永 中 岡	ロータリー財団委員会 (大阪なにわ) 尾 央 北 見 田 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 相 山 本 藤 西 村 居 横 山 佐 中 野 (大阪なにわ) 機 雄 平 一 和 司 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 英 守 公 俊 藤 浩 相 山 本 藤 西 村 居 横 山 佐 中 野
国際奉仕委員会 (大阪 豊中) 夫 三 英 郎 一 治 夫 也 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 納 哲 邦 貞 感 敏 和 木 利 川 山 村 西 登 西 八 毛 吉 横 西 中 加 中	青少年活動委員会 (大阪 豊中) 野 邊 本 尾 岡 原 岡 保 田 山 野 邊 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠
社会奉仕委員会 (大阪 豊中) 男 弘 宏 雄 夫 司 次 明 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 照 邦 光 幸 龍 雅 澤 宮 田 川 上 川 土 城 古 若 津 浦 樋 長 高 玉	職業奉仕委員会 (大阪 豊中) 元 嘉 和 道 直 澄 野 藤 後 田 永 村 木 田 辰 近 宮 本 池 木 村 前

研究グループ交換委員会 (大阪なにわ) 野 松 野 田 吉 松 宮 村 岡 村 中 田 井 田 浩 茂 正 潤 隆 宏 司 雄 勝 弘 雄 章 章 和 猛 治 透 翔 宏 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 雄 哲 三 郎 三 郎 部長 (大阪 豊中) 保 啓 暉 章 義 (大阪 豊中) 和 保 啓 暉 章 義 (大阪 豊中) 本川 原 田 川 江 澤 田 北 池 平 長 永 中 岡	財団奨学委員会 (大阪 豊中) 山 井 西 松 岸 大 佐 溝 梅 佐 榎 岡 岩 坂 島 栢 藤 崎 崎 藤 原 田 本 井 井 本 佐 溝 梅 佐 榎 岡 岩 坂 島 栢
世界社会奉仕委員会 (大阪 豊中) 澤 村 田 江 邊 林 村 谷 西 里 田 長 植 瀬 有 園 芦 小 三 壘 宮 大 宮 久 唯 久 宏 惠 久 仁 子 晴 章 治 郎 彦 健 一 徳 哲 造 子 子 晴 章 和 利 司 也 次 善 郎 久 雄 誓 一 和 朗 司 也 次 善 郎 久 雄 誓 一 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 野 邊 本 尾 岡 原 岡 保 田 山 野 邊 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠	青少年活動委員会 (大阪 豊中) 野 邊 本 尾 岡 原 岡 保 田 山 野 邊 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠
クローズド奉仕委員会 (大阪 豊中) 昌 城 司 生 賢 輔 秀 彦 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 上 野 本 山 田 田 前 俊 野 藤 後 田 永 村 木 田 辰 近 宮 本 池 木 村 前	クローズド奉仕委員会 (大阪 豊中) 敏 信 角 郎 彦 敏 信 一 晋 茂 信 一 晋 茂 信 一 晋

財団入道的補助金委員会 (大阪 豊中) 西 本 本 谷 万 田 中 増 岡 大 白 津 藤 健 誠 和 猛 治 透 翔 宏 (大阪 豊中) (大阪 豊中) 雄 哲 三 郎 三 郎 部長 (大阪 豊中) 保 啓 暉 章 義 (大阪 豊中) 和 保 啓 暉 章 義 (大阪 豊中) 本川 原 田 川 江 澤 田 北 池 平 長 永 中 岡	財団奨学委員会 (大阪 豊中) 山 井 西 松 岸 大 佐 溝 梅 佐 榎 岡 岩 坂 島 栢 藤 崎 崎 藤 原 田 本 井 井 本 佐 溝 梅 佐 榎 岡 岩 坂 島 栢
青少年交換委員会 (大阪 豊中) 藤 田 崎 岡 田 市 井 藤 田 崎 岡 田 市 井 藤 田 崎 岡 田 市 井 藤 田 崎 岡 田 市 井 藤 田 崎 岡 田 市 井	青少年活動委員会 (大阪 豊中) 野 邊 本 尾 岡 原 岡 保 田 山 野 邊 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠 北 泉 氏 渡 津 西 片 野 吉 久 楠
クローズド奉仕委員会 (大阪 豊中) 野 藤 後 田 永 村 木 田 辰 近 宮 本 池 木 村 前	クローズド奉仕委員会 (大阪 豊中) 敏 信 一 晋 茂 信 一 晋

●: 議長 ●: 委員長 ○: 副委員長

